

国際ロータリー 第2570地区 第2グループ

志木ロータリークラブ



2024-25年度 国際ロータリー会長 ステファニー・アーチック「ロータリーのマジック」

2024-25年度 第2570地区ガバナー 五十幡和彦 「入って良かったロータリー」

2024-25年度 志木ロータリークラブ会長 三上隆俊 「更なるクラブの魅力を協創しよう」

第2426回 例会

2025-4-23

- ◎司会 國分 学 副会長
- ◎点鐘 三上 隆俊 会長
- ◎ソング それでこそロータリー
- ◎ソングリーダー 高嶋 英一 副SAA
- ◎四つのテスト 高嶋 英一 副SAA
- ◎ゲスト 増田 一男様(志木市環境推進課課長)
木谷 美公様(" 主査)

「会長挨拶」

会長 三上隆俊



皆様こんにちは。本日も多くの会員の皆様にご出席をいただきまして有難うございます。4月も半ばを過ぎましたが、今月はロータリーでは環境月間となります。社会全体として環境への関心がますます高まる中、ロータリーという枠に関わらず、私たちの行動が未来に向けてどれだけ大きな影響を及ぼすのか真剣に考える時が来ているように思います。

今から40年くらい前に、お笑いで「赤信号、みんなで渡れば怖くない」というフレーズが流行りました。これは、集団で行動することによって安心感を示すことだったと思う

のですが、環境問題に照らしますと、「赤信号、みんなで渡ってはいけない」というメッセージになるかと思います。私たちは目の前にある問題に対して、目先の損得にとらわれず、ルールに沿って、一人一人が意識し、行動していくことが重要になっていくと思います。

また、古くから「お天道様はお見通し」という言葉も、私たちがどのような行動をしているのか、他人の目がどうであれ、しっかりと自分のポリシーを守る大切さを教えています。環境月間という機会に、持続可能な社会づくりに、勇気をもって貢献してまいりましょう。

結びに、本日は次年度会長アワーです。会長エレクトの金剛会員が、歩んでこられたロータリーライフのご経験からのお考え、より良い志木クラブへと導いて下さる次年度のご展望を皆様と共有できればと存じます。相変わらずの雑駁ですが、以上会長挨拶といたします。

「幹事報告」

幹事 田中幸彦

1. 地区事務所より4件受信

- ①2027-28年度ガバナー候補者(ガバナーノミニー・デジグネート)の宣言
- ②「2025年カルガリー国際大会」ガバナーズナイト開催案内
- ③ノスタルジックカーフェスタ開催案内
- ④地区研修・協議会お礼、並びに2025年規定審議会報告

2. 第2グループ島田ガバナー補佐より第6回会長・幹事会案内受信

日時：5月28日(水) 18:30～

3. 香川武文志木市長より「第8回志木市さくらフェスタ」協力団体へのお礼受信

4. 志木市青少年育成市民会議より令和7年度同会議総会及び研修会開催案内受信

日時：5月16日(金) 10:00～11:30

場所：総合福祉センター ホール

5. ハイライトよねやま Vol.301 2025年4月14日発行受信

「川街協力のお願い」

志木市民民生活部 環境推進課
課長 増田一男様 主査 木谷美公様



5月10日親と子の市内まるとクリーン作戦にご協力を

「委員会報告」

●社会奉仕委員会 委員長 西川和人

5/10 親と子の市内まるとクリーン作戦

5/28 献血活動

●親睦活動委員会 委員長 大村相基

親睦旅行のお礼

「『ロータリーの友』記事紹介」

雑誌・R情報委員会 委員 山村昭康

『ロータリーの友』4月号記事紹介

【目指せ！防災のTKB48】

【横組】

P7～13 「避難所のストレスをいかに減らすか」

TKB48 とはトイレ・キッチン・ベッドを48時間以内に避難所に整備することを目指す。日本と同様、災害多発国であるイタリアでは、国が主導してのシステムを取り入れて



いる事例が紹介されています。

【縦組】

P20 「あるある相談室」

相談「入会5年目の会員から例会で30分の卓話をするようになった会員からの相談です。」誰でも経験することなので是非お読み下さい。

P16 「友愛の広場」花火で清めた戦いの傷痕くずは森賢司会員

フィリピンに於いて個人で友好関係を築く活動をしている報告書です。こんなことが出来るのかと驚きました。

「卓話」

「次年度会長アワー」

会長エレクト 金剛光裕



皆様こんにちは

ただいまご紹介にあずかりました、次年度会長の金剛です

何をお話しすべきか考えたのですが、若い会員様もいらっしゃいますので、まず私自身の事についてお話しします。私は昭和39年6月1日に蕨市の三学院という寺の次男で生まれました。この寺は昔から多くの僧侶が修行していたり大学に通ったりしていたお寺でした。

今はそのような修行僧はいませんが、私が子供の頃はそのような若手の僧侶の皆様に可愛がっていただきました。

そういうわけで自然と寺の道に入ってゆきました。理科系の大学を卒業してから京都の本山で1年間修業し僧侶となりました。縁があって、今の寶幢寺の副住職として、また後継者としてこの志木の街にやってきました。兄が青年会議所に入っていたこともあって、拒否感もなく朝霞青年会議所に誘われ入会しました。

ここでは会議のやり方や、地域をいかに良い地域にしていくか、そのような事を色々と議論したりして自分なりに成長できたと思います。またこの時に大切な仲間もたくさんでき、生活に張りもでてきました。

その青年会議所もあと1年というところの11月に義父が脳梗塞で倒れました。前兆がまったくなく突然のことでとても戸惑いましたが幸いに命はとられませんでした。右辺麻痺と失語症となり、私の生活は一変しました。義母は毎日病院通いで、こちらは寺の経営の事は何も聞いてなかったのが不安の中副住職の立場で住職と同等のことをしていました。この時の一年はまさに暗黒の一年で、外にもほとんど出ず出る気になりませんでした。一年たつとようやく生活も落ち着き父が倒れてから2年半後、正式に住職となりました。

こののち数年して、父も在籍していた、志木ロータリークラブに入りました。

皆さんも様々な理由で入会されたと思いますが、私は会員さんとの人間付き合いがとても有難かったです。

いままでお会いできなかった様々な職業の先輩の方々と親しく話せるようになり、人間としてもとても幅が広がったと思います。

綺麗事に聞こえるかもしれませんが、直接仕事に繋がらなくても人と人のつながりが自分の人生を豊かにしてくれると思います。

さて次年度会長アワーということで、正直色々としやべるのは好きじゃないのですが、まず次年度の RI 会長からのメッセージをお伝えします。

2025-26 年度 国際ロータリー 会長マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏はブラジル・サンパウロ出身の方です。

「Unite for Good ～よいことのために手を取りあおう～」というメッセージ（次年度はテーマやスローガンは無しです）のもと、以下のようにお話しされてます。

「今、ロータリーの未来を確かなものにするには、組織全体で会員増強に力を注ぐことが不可欠であると、これまで以上に確信しています。それでは、会員増強と活性化に向けたロードマップについてお話ししたいと思います。このロードマップは、革新、継続性、パートナーシップという、不可欠な三つの柱に基づいています。これらの原則は単なる戦略ではありません。ロータリーを活性化し、新たな声や考え方を取り入れ、世界中の地域社会への奉仕を強化するための行動の呼びかけです。世界は、劇的なペースで変化しています。テクノロジー、社会の期待、経済状況は常に変化しており、ロータリーもそれに合わせて進化しなければなりません。トーマジ・ィ・ランペドゥーサが『山猫』で書いたように、「すべてを同じままに保つには、すべてを変えなければならない」のです。革新こそが、変化するこの世界に私たちが適応する手段なのです。若い会員を迎え入れるだけでなく、目的やつながりを求める年配の方々にも参加していただく必要があります。」

ということで、RI 会長は、会員拡大を第一にもってきました。しごくごもつともで、会員がいなければ何もできません。幸い志木クラブは近年会員拡大に成功していますが、この動きを続けていかなければ将来ジリ貧になるのは目に見えています。また退会を防止するのはそれ以上に大切です。せっかく仲間になったからには、本人はもとより会員全員が気にかけて、みんなで会を盛り上げていきましょう。

また、RI 会長はロードマップとして、革新、継続性、パートナーシップを、不可欠な三つの柱と位置付けました。

「継続性とは、画一性ではなく、連携です。

4 月 は 「 環 境 月 間 」 です

地区リーダー同士が連携し、自分の“ガバナ―年度”を越えてロータリーを思い描けば、長期的な成功の土台が築かれます。ロータリーはすでに、毎年リーダーが交代するという独特な課題に直面しています。これ以上、私たちの努力を分散させて、状況をさらに難しくしてはなりません。むしろ、未来のリーダーがさらに発展させていけるような協力の遺産を築いていきましょう。」

お互いの会員同士だけではなく他クラブや地域の方々や各種団体との連携が大事で、それには継続性が必要ということから、ロータリーの単年度制から長期を見据えた活動に移行すべきという信念のもと、どうやら「会長テーマ」や「スローガン」が継続性の弊害であるということでこれらをやめました。ただメッセージとして、「Unite for Good ～よいことのために手を取りあおう～」を前面に掲げました。ちょっと意味不明のところもあり突っ込みどころ満載ですが、あえて翻訳の難しさというところでおさめましょう。

「よいこと」とはとっても抽象的な概念で、いかようにもとらえられます。「誰にとって」か、またその人の宗教的基盤や考え方によっていかようにも変わってきます。我々が行う「奉仕活動」がだれと一緒にやるのか、一体だれのためなのか、それによって何が変わるのかを意識していくのが大事だと思います。

さて、2570 地区では RI 会長のメッセージ「Unite for Good ～よいことのために手を取りあおう～」を RI の指示のもと、地区のメッセージ（アピール）として使うそうです。クラブに対してもそれを推奨するということですが当クラブは次年度のテーマとして「前進」を掲げます。

これは現状に満足することなく、一歩踏み出しましょうということです。待っていてもなにも始まりません。行動していくことが大事です。現状に満足することなく、高みをめざして活動していきましょう。

今年度はデジタル化を推進し、公共イメージを高めるような活動を具体的に進めましょう。年齢の壁を取り払い、お互いに敬意を持

ち分らないところは率直に話し合い運営したいと存じます。

志木ロータリークラブの活動・活躍



4/15 浦和ゴルフ倶楽部において、富士見・志木RC親睦ゴルフコンペが開催され、優勝・鈴木会員、2位・星野会員、3位・古田会員でした。団体優勝も果たしました



4/20 駿河台大学において、地区研修・協議会



4/21 十文字学園女子大学にて、西川会員が講義を行いました



スマイル報告 木下哲男副SAA

●出席報告 出席向上委員 市之瀬正靖

会員数50名	出席義務者48名	免除者2名
本日出席 43名	本日欠席 7名	本日出席率 86. 00%
前々回 MU (22名中0名)	前々回修正出席率 80. 87%	平均出席率 81. 26%

高野邦夫会員を偲んで



1943.12.10.-2025.3.27. (81 歳)

R C 歴

職業分類 建築業 高野建設(株)

2002 年 6 月 入 会

2016～2017 年 第 45 代会長

会長テーマ「六根ロータリー」

2016 年 ベネファクター

2008 年 マルチプル米山功労者(5 回目)

2012 年 マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

「同期生、高野邦夫君を偲んで」 清水良介

去る 3 月 27 日志木 RC 第 45 代会長の高野邦夫君が 81 歳で逝去されました。

邦夫君とは、志木小、志木中での同期で中学時代は同じ野球部員で共に汗を流した仲でした。

社会人になって、それぞれ自分の会社(店)を兄に代わって継いできました。

邦夫君の兄(英男さん)とは 20 代の頃より JC、商工会、PTA、RC 始め街づくり仲間としてお付き合いをして頂きましたが、邦夫君とは、同窓会の幹事として毎回お互いまとめ役をしたり、私が商工会の会長の時は工業建設部会長として色々会員さんにリーダーシップを発揮して頂き部会の発展に尽力して頂きました。

又、2002 年、私が志木 RC 第 31 代会長の時、第一例会を 7 月 3 日に開催、そして 7 月 24 日 1500 回目の例会に高野邦夫会員と長島

功二会員のイニシエーションスピーチを行って頂き記念すべき例会に華をそえて頂きました。

そして今、また一人幼馴染がいなくなりとても淋しい気持ちです。

我自宅、我店の新築の建設も高野兄弟にお世話になりました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

2025 年 4 月 17 日

志木 RC 第 31 代会長 清水良介

2024 年 12 月 11 日(三上隆俊会長年度) 第 2414 回例会会報より再録

「ご挨拶」

高野邦夫会員

昨日 12 月 10 日、81 歳の誕生日を迎えました。昨日ゴルフをやりまして、スコアが 65、65。楽しいゴルフでした。

病気の件ですが、最近がんのニュースがいろいろあって、私より下の年代の方が亡くなっています。私のがんの疑いが判ったのが去年の 12 月。80 歳の時でしたが、80 歳になると二人に一人のがんになってもおかしくないなと思いました。今の心境ですが、ロータリーを含め、仕事も含めて、よく今まで皆さんに、あらゆる良い人に巡り合って、仕事は大変な時もありましたが、自分の人生としては非常に満足しております。そういう意味で悔いがないので、80 過ぎてはもう治療もいいと思っておりましたところ先生の方から余命 1 年ですと言われました。それから半年が過ぎまして、体は時には疲れて昼寝をしたりするときもありますけれど、平均すると別に異状ありません。食は少し細くなった気もしますが、あと半年くらいゴルフは出来るかな、と。

ご心配を頂いておりますけれど、受け入れることは受け入れて、あと半年なのか、半年でいなくなっても、私は人生満足しておりますので、皆さんにそれだけは伝えたいと思っておりますが、半年で行くと確約はしません。という状況です。ありがとうございました。(談)